

# 山正ニュース

2015年2月号 (通巻69号)

< 山正ネットワーク >

・本社	☎ <058>271-4468	岐阜県岐阜市市橋4-5-15
・広域資材肥料部	☎ <058>271-4468	(本社内)
・岐阜営業所	☎ <058>271-4466	(本社内)
・可児営業所	☎ <0574>62-5228	岐阜県可児市川合345-1
・富山営業所	☎ <0766>55-3882	富山県射水市大江207-1
・飛騨営業所	☎ <0577>72-4866	岐阜県高山市園府町村山857-2
・愛知事務所	☎ <0568>68-7430	愛知県小牧市久保一色町南2-181
・山正HPアドレス	<a href="http://www.yamasyou.com/">http://www.yamasyou.com/</a>	

## § 1 微生物農薬情報

～うどんこ病・灰色かび病に高い予防効果を発揮、  
散布後の汚れが少ない“インプレッションクリア”の紹介！～

平成26年5月にうどんこ病と灰色かび病専用の微生物殺菌剤“インプレッションクリア”が登録され、今年度から本格的に使用していただけることになりました。本剤は、有効成分がバチルス・アミロクリエファシエンス (*Bacillus amyloliquefaciens*) という細菌で、製剤1g当たりこの細菌の生芽胞<sup>\*</sup>が500億個 ( $5 \times 10^9$ CFU<sup>\*\*\*</sup>/g) 入っている生きた生物農薬でいわゆる環境にやさしい剤です。

<sup>\*</sup>生芽胞 (なまがほう) ; 細菌が作る耐久性の高い細胞構造のこと。半結晶状態になって不良環境に耐え、条件が整えば容易に生物活性を回復する。インプレッションは類白色水和性の粉末となっているが、水に溶かすと細菌本来の働きをするようになる。

<sup>\*\*\*</sup>CFU ; コロニーフォーミングユニット、Colony Forming Unit の略。細菌がコロニーを形成する能力のある単位数のことで、ほぼ細菌の数に相当する。

### ◎本剤の作用機作

本剤の効果は、植物体の表面に散布されて定着したバチルス菌が、その後に侵入してくる病原菌の生息場所を奪ってしまうことによります。すなわち、本剤をあらかじめ散布しておく、うどんこ病菌や灰色かび病菌が細菌との生存競争に負けてしまい、結果として病気に罹らなくなります。しかし、一旦発病してしまった場合の治療効果は期待できません。

### ◎適用病害と使用方法

本剤は下の表に示したとおり、うどんこ病と灰色かび病の専用剤です。作用機作から明らかのように、保護作用が強く予防効果が主体なので、発病前から発病初期の間に7～10日感覚で数回散布するのがよいでしょう。

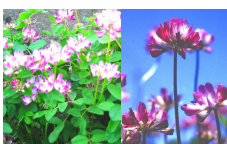
#### インプレッションクリアの適用病害と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	バチルス・アミロクリエファシエンスを含む農薬の総使用回数
野菜類 豆類(種実) いも類	うどんこ病 灰色かび病	1000～ 2000倍	100～ 300ℓ /10a	発病前から 発病初期 まで	—	散布	—

### ◎特長等

本剤は分散性、懸濁性に優れた水和剤で、散布した作物の汚れが少なく、効果も安定しています。また、生物由来の農薬であるため、薬剤抵抗性発達の可能性が低く、環境にやさしい防除法 (IPM<sup>\*\*\*\*</sup>) の中核を担う剤としても期待できるものです。さらに、多くの化学農薬との混用が可能であること、訪花昆虫や天敵と併用しても安全であること、登録が野菜類、豆類(種実)いも類のように作物群の登録となっており、多くの作物に使用が可能であることなど、現場で使いやすい剤ので、今後積極的な使用をお奨めいたします。

<sup>\*\*\*\*</sup>IPM ; Integrated Pest Management 略。化学農薬だけにたよらない病害虫・雑草の総合管理法。



株式会社山正は、農薬・肥料・園芸ハウス・農業資材等の販売や、それに伴う農地・緑地・街路樹等のメンテナンス業務を通じ、地域農業や地域の環境緑地化への貢献を目指しています。



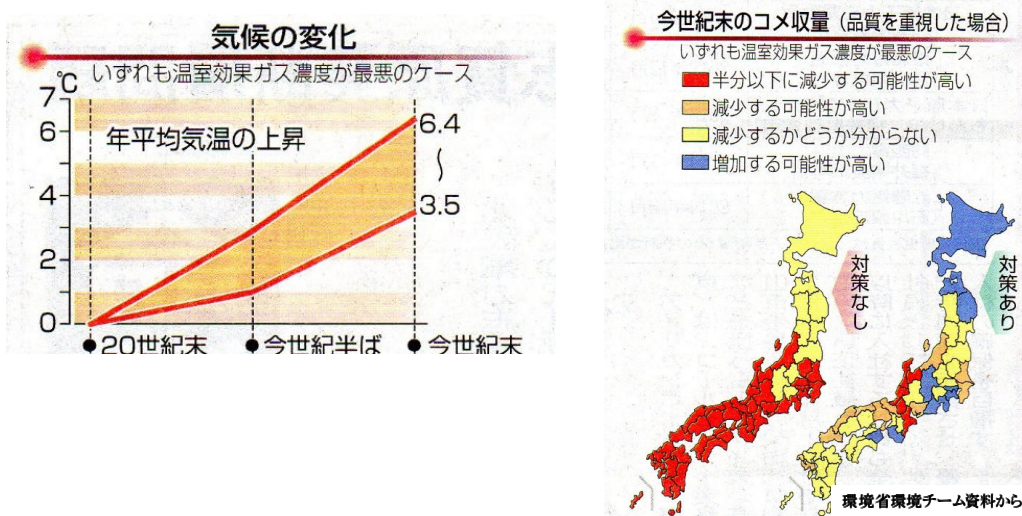
# § 2 コメについて考える⑪

## ～今世紀末には深刻な品質劣化が進行か？

### 主産地でも生き残りをかけた対応が必要に！～

一年ほど前のことになるが、環境省の研究チームが最新のコンピューターモデルを使い、日本の気候温暖化による影響を予測した研究成果のなかで、今世紀末にはコメが、その生産においてきわめて厳しい局面を迎えるであろうとの結果に達したとする報道に少なからぬ衝撃を受けた方も多いのではないかとと思われる（平成26年3月18日付北日本新聞；以下の図はいずれも同紙の記事中のものを転載したもの）。

同チームの報告書によれば、現状のペースで温室効果ガスの排出量が増え続けると仮定した最悪のケースでは、日本の平均気温は今世紀半ばに1.0～2.9度、今世紀末には3.5～6.4度も上昇すると予想されている。その結果、最も影響を受けるのが農業分野で、なかでもコメの影響が深刻になるとみられている。気になるのは、収量は全国的に増加（最大1.7倍程度）するものの品質の良いコメに限って試算した場合には中部や近畿、九州などで半分以下になる可能性が高いとみられていることである。さらに気になるのは、現在良質米の産地を自負している北陸三県や滋賀・三重の各県では、田植時期を後ろにずらすなどの対策を講じてもお米良質米の収量が半減してしまうと予測されていることである。



この予測結果から明らかなように、現在の品種を用い、現状で考えられる田植時期の繰り下げなどの対策を講じている限りでは日本の稲作の地域差がますます拡大してしまうことになる。特に、現在良質米の生産を自負している富山をはじめとする北陸各県は手をこまねいているわけにいかなくなることは想像に難くない。田植時期の繰り下げ以外に高温条件下でも水稻本来の能力を十分に発揮させるような有効な技術対策についてあらためて見つめ直す必要があるのではないかと考えられる。いま一つは高温に強い品種開発の加速化である。現在、良質米生産県の試験場では、高温に強い品種の高温耐性遺伝子に標識(マーカー)をつけ、良質米品種に効率よくスピーディーにこの遺伝子を導入して、高温に強く品質も良い品種の開発が進んでいると聞いている。品種が開発された暁には県間の Monroe 主義を捨て、良いものであれば他県で開発されたものでも地域全体に、さらには日本全国への普及展開を図っていく寛容な姿勢が重要になるものと考えられる。そして、そのことがとりもおさず我が国の稲作を救うことにつながっていくと思われるのである。

なお、本ニュースではこれまでも下の表に示した内容でコメについて考えてきたところですが、今後とも折にふれて、コメについて考えていきたいと考えています。

これまで山正ニュースで掲載してきた「コメについて考える」一覧

シリーズ番号	掲載号	掲載年・月	掲載タイトル
コメについて考える①	通巻24	2011・05	週刊エコノミスト特集「コメを食う 日本人の原点はどこへ」から
コメについて考える②	通巻26	2011・07	再びコメについて考える～先物取引復活の動きと成り行きに注目していきたい～；これを②とする
コメについて考える③	通巻41	2012・10	豊かな実りは日本の原風景。コメの重要性は変わらない
コメについて考える④	通巻44	2013・01	注目していきたい新たな動き、守っていきたい国内生産！
コメについて考える⑤	通巻51	2013・08	注目していきたい海外生産の動き
コメについて考える⑥	通巻54	2013・11	ベトナムで日本米生産の動き、懸念される国内生産空洞化への影響
コメについて考える⑦	通巻56	2014・01	「和食」の主役を果たしてきたコメ、世界文化遺産登録を機にさらなる魅力の深まりに期待
コメについて考える⑧	通巻63	2014・08	模索が始まっているコメ輸出の可能性、求められる新たな輸出ノウハウの構築！
コメについて考える⑨	通巻64	2014・09	求められるコメ生産のフレキシビリティ
コメについて考える⑩	通巻68	2015・01	民間会社がコメ生産に参入する新たな動き、農地中間管理機構が大きな役割を發揮か！

#### § 1 微生物農薬情報

～うどんこ病・灰色かび病に高い予防効果を發揮、

散布後の汚れが少ない“インプレッションクリア”の紹介！～（鷲見係長・名畑技術顧問）・・・1 ページ

#### § 2 コメについて考える⑪

～今世紀末には深刻な品質劣化が進行か？

主産地でも生き残りをかけた対応が必要に！（名畑技術顧問）・・・・・・・・・2 ページ